

近畿児童養護施設協議会 第34回 職員研修会を開催しました

日時：令和元年11月11日（月）9時30分～16時30分

会場：大江ビル 13階 第3～6会議室

参加者：97名

石坂好樹先生（京都桂病院精神科）の講演と事例報告



●参加者の声●

○2つの施設より事例を上げて頂き学びも多く、指導の方法の引き出しも増えたと思います。自分の糧になりました。

○精神科医の先生からの話は研究にもとづくもので、説得力があります。特に神経の可塑性についての話は、虐待で傷ついた子どもたちにも光が見えた気がしました。日頃の関わり方により、変わることを信じて、根気よく子どもたちに関わりたいと思いました。

○石坂先生の話は、施設職員が持っているとらわれた考え方をほぐしていただける内容で新鮮でした。

○2施設の事例について大人数で話し合うことがあまり経験できることではないのでとても参考になりました。色々な施設がある中で、子どもも様々なので、対応、支援は都度考えていき、討議することが大切だと感じました。

第 34 回職員研修会開催要綱

○総 主 題

「ケアニーズの高い入所児童への理解と対応」

○趣 旨

2017年8月に示された「新しい社会的養育ビジョン」では社会的養育を担う施設に対し、より一層の小規模化や地域分散化を求める一方、心理職や医師、看護師等の専門職の即時の対応が必要な“ケアニーズが非常に高い子ども”に対しては、集合した生活単位（4人×4単位）において、多様な専門職による集中的なケアを必要としています。

これまでも施設においては、被虐待児や発達・愛着への障がいをもつ児童、あるいは児童心理治療施設や児童自立支援施設からの措置変更といった困難なケースに数多く対応してきました。これからはそうした取り組みへのアセスメントや適切なSVに加えて、多職種間の連携による細やかなケアを実践していく必要があります。

この間、近養協の職員研修会では「思春期の理解と対応の工夫」（第32回・2017年度）「子どもの権利擁護と権利侵害事案の撲滅にむけて」（第33回・2018年度）をテーマに、思春期児童の特性の理解や、改めて権利侵害の撲滅に向けた結束を深める研修を実施致しました。

今回の研修会では「ケアニーズの高い入所児童への理解と対応」をテーマに、講師として京都桂病院精神科 医師の石坂 好樹先生にお越しいただき、現場における困難事例をもとに対応の検討やSV、質疑応答を通しての情報共有を図り、適切な支援が展開出来るよう学びを深める有意義な時間にしたと思います。

○講 師

石坂 好樹 氏（京都桂病院精神科 医師）

プロフィール

1948年兵庫県生。京都大学医学部卒業後、京都大学医学部附属病院精神科勤務を経て、現在は京都桂病院精神科への勤務に加えて、児童心理治療施設、ももの木学園施設長も務める。日本精神神経学会 会員
主著に、自閉症とサヴァンなひとたち（星和書店、2014）など。

○タイムスケジュール

| 9:00 | 9:30 | 9:50 | 11:50 | 13:00 | 15:00 | 15:15 | 15:50 | 16:20 |
|------|----------------------|-------------------|-------|-------------------|-------|-------|-----------|-------|
| 受 付 | 開会式 オリエン テーション | 発題Ⅰ 及び 質疑応答 | 休 憩 | 発題Ⅱ 及び 質疑応答 | 休 憩 | 質疑応答 | まとめ 総評 | 閉会式 |